

平成 26 年度第 8 回小学校ゼミナール記録

2015 年 3 月 21 日（土）

於：広島大学附属小学校

参加者：宮崎（授業者）・早田・森山・橋口

1. 協議事項

研究大会で実施された授業についての反省

2. 協議内容

今回の小学校ゼミナールでは、広島大学附属小学校研究大会において実施された宮崎教諭の授業についての反省を行った。単元は、第 6 学年の「比例と反比例」であり、授業の目標は、比例の関係をグラフに表すと、縦の軸と横の軸が交わる 0 の点を通る直線になることがわかることであった。この授業は、サラダの重さと値段の間にある比例の関係をグラフに表すことから始まり、縦の軸と横の軸の目盛の大きさを変えたグラフや、原点を通らないグラフを見せることによって、児童たちに比例のグラフの特徴を気づかせるというものであった。実際の授業では、サラダの重さと値段の関係をグラフに表すことは、多くの児童たちが可能であったが、縦の軸と横の軸の目盛の大きさを変えたグラフに関しては、戸惑いを見せる児童たちが多く見られた。

反省点として、なぜ比例の関係を表したグラフが直線になるのかに関する議論があまり行われなかったことが挙げられた。比例のグラフが直線になることは、変化の割合に関係することであり、比例は中学校の一次関数への接続を担うことを考えると、もう少し取り上げてよかったのではないかという意見が出された。また、目盛の大きさを変えたグラフを扱うことに対する疑問も挙げられた。授業では、もともと縦と横の比が 1:2 であったグラフが、目盛の変更により、縦と横の比が 2:1 になるものが扱われていた。このことに対し、多くの児童たちが戸惑いを見せていたことから、グラフの 1 時間目に取り扱う必要はなかったのではないかという意見や、縦と横の比が変わらないような目盛の変更を行えばよかったのではないかという意見が挙げられた。

反省点を議論する中で、比例のグラフの学習において、抑えるべきポイントが挙げられた。それは①グラフの書き方、②グラフのよさ、③なぜ直線になるのか（変化の割合）の 3 つである。特に、③に関して変化の割合は、小学校での学習の範囲外であるため、どのようにして直線になることを教えたらいいいのか、という議論に発展した。そこでは、視覚的なものを重視する必要があるという意見も挙げられつつ、反省会は終結を迎えた。

（文責：橋口 幸貴）